

# The Futaka Spirit

(現教だより第4号)

5年 体育科(保健)

単元名「心の健康について考えよう」

指導者 西尾 友紀 先生

養護教諭が授業を行うことの意義を十分に感じることもできる、柔らかく暖かな授業でした。一人一人の確かな見取りができて初めて、子ども中心の授業が成立することを改めて感じさせて下さいました。

**【学習活動】**

1 事例①～③について、グループで解決方法を話し合う。



グループで協力しながら事例について話し合う



個の課題とつないで考えるよう助言する

2 全体交流を行い、解決方法を整理する。



多様な解決方法を分類、整理していく



友達の話を聞いて自分なりの解を模索する

3 自己の悩みに立ち返り、新たな解決方法を考える。



カードに「自分にとって意味のある知」を記入



資料とつないで考える (文責 橘 慎二郎)

**【西尾先生コメント】**

抽象と具体に迫って授業を組み立てていたが、そこを考えすぎたあまり、討議の中でも上がっていたように「身体的、時間的にみてどう考えるか？」の見方・考え方の部分へ考えが及んでいなかった。身体的、時間的という見方、考え方に沿うことで授業や単元全体の深まりやまとまりをより高めることができていたのではないと思う。養護教諭である私の視点と研究とを組み合わせ「子どもたちのために」を忘れずにこれからも研究を進めていきたい。

# 西尾実践【第5学年 体育科(保健)】

## ～ 心の健康について考えよう ～



### 本実践の主張点

子どもたちが課題をより自分事として捉えられるようにするために、

提案Ⅰ 抽象(事例)と具体(実際の経験)とを行き来して考える単元構成にする。

提案Ⅱ 自分の意識・考え方の変化を視覚的に実感できる状況づくりを行う。

### 養護教諭が授業をすることの意義

本提案は養護教諭による保健学習の在り方を問うものであった。今回意味があったのは、養護教諭という立場で授業を行うことの意義が明確に示された点である。西尾先生は、「子どもたちにとっての居場所は教室であり、保健室は通過する所、または通過してもいい所」と述べている。通過点という表現で謙遜しながらも、友達でも担任でもない立場から、子どもの悩みを真摯に受け取り、相手の思いを受け取ることができるのは、まさしく養護教諭ならではの強みである。

#### ○ 養護教諭が授業をすることのメリット

- ・ 子どもの実態や様々な情報をもとに、養護教諭自身が子どもに思いを伝え、直接反応を受け取れること。
- ・ 子どもたちの心の健康に対して、その予防への効果が期待でき、授業後も保護者での子どもへの対応に生かすことができる。

#### ○ 養護教諭が授業をすることのデメリット

- ・ 養護教諭不在時の緊急体制や保健室登校生の問題  
※ これについては校内指導体制の確立が求められる。ハード面だけでなく、養護教諭の大変さを全職員が理解し、サポートしていくことが大切である。

### 抽象と具体とを行き来して考える単元構成

本提案では、子どもが課題を自分事として捉えられるようにするための手立てとして、抽象(事例)と具体(実際の経験)とを行き来できるような単元構成の工夫が示された。これまでの進め方では、まずは本校で言う「知識・理解・技能」に当たる抽象(教科書の内容)が示され、それをもとに具体(自分の内面)に当てはめて演習を行うといった流れが主流であった。本提案では、まずは学びを子どもにとっての具体(自分の内面)からスタートさせ、それを核としながら、問題解決が進められていった。

単元構成は全4時間と短めであるが、毎時の子どもの意識の中には具体(自分自身)が息付いており、常にそこに立ち返りながら心の健康について考えていくことで、授業者がねらった「課題を自分事として捉える」子どもの姿が見えてくると考えた。

本時においては個々人によって悩みのレベルに大きな開きがあり、全体で取り上げにくい状況が生まれたため、教師がまとめた3つの事例をもとに解決の方法が話し合われた。ただ、ここでの事例はあくまで、教師によってつくられた例であったため、自分事として捉えにくい子どもも表れた。悩みが切実であればあるほど取り上げ方には配慮が必要だが、解決方法の吟味を行う場面を設定することで、子どもに具体的な対処策を還元できる方法があったのではないかという意見も出された。

とはいえ、子どもが切実な悩みを養護教諭に打ち明けたという事実は、教師への信頼と、何とかして悩みを解決したいという子どもたちの心の叫びであり、それらを真摯に受け止め、温かい眼差しでそれに応えようとした西尾先生の姿に、教師としてあるべき姿を感じることができた。本単元の本質を理解し、教科書に掲載されている知識の伝達に留まることなく、子どもが自分で悩みを解決していけるようにするためのヒントについて考えさせられる、本当に見応えのある45分であった。

### 成果と課題

- 養護教諭としての立場を明確にした授業提案が成されたことにより、今後の保健学習の在り方について全職員で考えるきっかけにつながった。
- 抽象と具体を行き来する単元構成を行ったことで、子どもが課題を自分事として受け止めるチャンスが生まれた。
- △ 今後も保健室経営を通して、本単元で触れた子どもの悩みと、真摯に向き合っていく必要がある。